

ナガサキからの平和アピール

たった一発の原子爆弾により、一瞬にして7万人を超える尊い命が奪われ、焼け野原となって78年。今もなお、被爆の後遺症に苦しんでいる方々がいる。「もう二度と被爆者を作りたいくない」「地球上から核兵器をなくしたい」という強い願いにもかかわらず、今なお、私たち人類は核兵器の脅威にさらされ続けている。

国際社会に目を向ければ、ロシアによるウクライナへの軍事侵略は未だ終結の兆しすら見えず、北朝鮮による度重なるミサイル発射など、今この時も世界の平和が脅かされている。世界から核兵器をなくそうと、積み重ねてきた人類の努力の成果が次々と壊され、核兵器が使われる危険性が高まっている。これらは、核兵器がもたらす生き地獄を「繰り返してはならない」という、被爆者の強い思いや必死の努力を踏みにじるものであり、断じて許されない。私たちは、暮らし、働く、自由で民主的な社会の意義、それを支えることの重要性を改めて認識し、戦争体験や被爆体験を語り継ぎ、平和を守る努力を続けていかなければならない。

核兵器廃絶そして世界の恒久平和の実現に向けては、世界各国の対話はもちろん、核軍縮・不拡散をめぐる議論の中核を担ってきたNPT体制の維持・強化に向けた、一層の努力が必要である。本年5月、被爆地・広島においてG7サミットが開催され、核兵器保有国を含む世界のトップリーダーが広島平和記念資料館を訪れた。各国のリーダーには、核兵器の恐怖と悲慘さ、実相を強く胸に刻み、核兵器廃絶に向けたリーダーシップを発揮することを強く期待する。そして、世界で唯一の戦争被爆国である日本政府には、「核兵器のない世界」を実現するため、自らの役割と責任を果たすことを強く求める。

連合は、原水禁、KAKKINとともに、毎年、核兵器保有国の駐日外国公館に対して、核兵器廃絶に向けた要請行動を展開するとともに、全国各地で原爆写真ポスター展や平和学習会を開催するなど、核兵器の恐怖と非人道性を強く訴え続けている。

私たちはこれからも、核兵器廃絶と恒久平和の実現をめざして、原水禁、KAKKINをはじめ平和首長会議や国際労働組合総連合（ITUC）、長崎大学や長崎外国語大学などの教育機関、関係NGOとの連携を強化していく。そして、平和を願うすべての仲間の力を結集し、粘り強く運動を展開していくことをここに宣言する

2023年8月8日
連合 2023 平和ナガサキ集会